

# 技術士 1 次試験に合格して



竹田 美流

(たけだ みる)

## 勤務先

和光技研株式会社

技術本部 河川環境部

〒063-8507 札幌市西区琴似 3 条 7 丁目 5 番 22 号

TEL 011-611-8727 FAX 011-611-0227

E-mail miru.takeda@wako-giken.co.jp

■ 専門：環境部門

## 自己紹介

私は札幌市で生まれ育ち、高校・大学では環境化学や水質環境について学びました。卒業後は、和光技研(株)に入社し、主に自然環境調査を担当しています。

仕事は、植物・鳥類・哺乳類・昆虫類・魚類など自然環境全般の調査を行っており、中でも、植物調査を担当することが多いです。そのこともあり、入社してからは自然公園の散策や山登りをして、植物観察をすることが趣味となりました。

日々の仕事では、自然環境の保全と、人々が安心・安全に暮らすための開発事業について、どのようにバランスをとることがベストであるのかを考えて、業務を行っています。

## 受験のきっかけ

就職活動の際に、技術士がこの業界において最高峰の資格であると知りました。そのため、技術士の早期取得を目指し、入社した年に受験することを決めました。

## 受験体験

試験勉強は、10年分の過去問を解き、各部門で正答率が7割以上になるまで繰り返しました。社会人になってからの勉強は学生時代と比べ、時間を確保することが難しく苦勞しました。できるだけ、平日の昼休みや帰宅後に勉強をしようとしたのですが、勉強を始めると急激な眠気に襲われ、長くても1時間で終了してしまうことが多々ありました。そのため、土日や祝日に4～5時間程まとめて勉強をしていました。

専門科目については、学生時代の専門分野が多く出題される傾向があったため、自信満々の状態で試

験に挑みましたが、専門科目で点数が1点足りず、その年は不合格となってしまいました。結果を分析したところ、過去問で出題された問題は解けていたのですが、時事問題や応用問題については不正解のものが多くありました。

このことを踏まえ、専門科目については問題中のキーワードをピックアップし、意味を調べることで理解を深めました。さらに、時事問題にも対応ができるように、環境白書などを読みました。なお、基礎科目・適正科目については、前年度と同じく過去問を繰り返し解きました。自分の中では、2度目の試験では絶対不合格になるわけにはいかないと思っていたため、必死になって勉強をしました。

試験当日は、酷く緊張をしていたため、ほとんどお昼ご飯を食べることができませんでした。終了後、専門科目は手ごたえを感じましたが、基礎科目と適正科目は想像していたよりも難しく、不安になりました。

しかし、結果は基礎・専門科目が8割、適正科目は7割の正答率で、無事に合格することができました。

## 最後に

二次試験の受験資格を得るには、まだ数年はありますが、受験を意識して普段の業務に取り組んでいます。今の自分には、知識や経験力の他、理論的に物事を考える力やコミュニケーション能力が全然足りていないため、日々自己研鑽を怠らず、身につけていきます。

最後に、受験にあたって、様々な方の支えがあり合格することができました。この場をお借りして、感謝申し上げます。